

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	基本理念として3項目を掲げ、入居者様のこれまでの生活を重視し地域・ご家族様との連携も考えた理念を作っている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念をホール中央に掲げ、常に意識し実践するよう心がけている。ミーティング時には再確認するなどもしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム玄関、各ユニットホールに掲げている。		運営推進会議や、新聞などを利用しもっと周りに広めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日中働いている家庭が多く、なかなか顔を合わせることがないが、挨拶等心がけている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	行事時の時など、地域サークルの方との交流の場をもうけたり町内のお祭りに参加したりしている。		地域の方にも参加してもらえる様な行事を、グループホーム側で計画していきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	今のところ、特に取り組みはしていない。		今後、地域との交流を含め考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の評価で、地域との交流でボランティアの活用が議題に上がりホーム内で話し合いをしているが、まだ活用できていない。		今後も話し合いを続け、是非取り組んでいきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	年間を通して回数的には少ないかもしれないが、情報交換・質問・要望等聞き入れながら取り組んでいる。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	何か問題が生じたり、ホーム内等で判断できかねる時などは相談している。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ミーティング時など、話題に上がることはあるが、学ぶ機会などはもうけていない。		今後勉強会などを通して、学んでいきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待については、常にスタッフ間でも話し合い、少しでも気になる点があった時はミーティング開き話し合いの場を設け、見過ごすことのない様注意を払っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族様とは、出来るだけ会話の場を多くもち時間かけ説明し理解・納得をしていたく様になっている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様とは、日常会話の中で不満や苦情などを話し合える様コミュニケーションを大事にしている。また、苦情・不満に対してはその都度話し合い運営に反映できる様している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>ご家族様とは面会時、必要に応じては電話・郵便等でホームでの暮らしぶりについて報告している。金銭管理については毎月、詳細を送り確認していただいている。また、不定期ではあるが、ほほえみ通信を発行しホームの状況を報告している。</p>		<p>ほほえみ通信の回数を増やしていきたいと考えている。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族様とはできるだけ直接話しをする様にし、意見・不満・苦情にはその都度対応している。苦情箱を設置しているが、今のところ利用はされていない。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>時間のある限り意見交換をするなど、スタッフとの会話を大切にしている。また、月1回のミーティング以外にも、問題が出た時はその都度ミーティングの場をもうけている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要に応じて、可能な限り勤務の調整はしている。特に夜間については、スタッフ同士協局できる様、話し合っている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>馴染みの関係が出来る様、ホーム内での移動はしていない。離職者が出た場合は、口頭で説明をしている。ご家族さまには通信を使い報告する様にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要に応じて内部、外部の研修会参加・勉強会の計画を立てている。できるだけ多くのスタッフが参加出来る様努めている。		研修会、勉強会の機会を増やしていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との情報交換、交流もかねて研修会や忘年会等、積極的に参加している。また、参加が同じスタッフにかたよらない様に配慮している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	思ったことを話しやすい様にスタッフへの声かけに配慮したり、時間を作り話を聞くなど環境づくりに取り組んでいる。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格習得の為に休暇・手当などがあり個々にステップアップできる様配慮している。また、個々の能力・実績・努力等考慮し待遇改善に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用に向け、ご本人様と面談し情報収集に努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談があった時点からホーム側のことも良く説明し、困っていること・求めていることを聞きだせる様努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様と入居者様の必要としていることと、グループホームで出来ることを考え、よく話し合っただけ対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	スタッフとの顔合わせ、ホームの雰囲気を感じていただく意味も考えて、数回の見学をしてからサービスを開始する場合もある。入居者様本人が見学する場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	「介護」言う言葉にとらわれず、共に生活をしていると考え良い関係を築ける様努力している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	グループホームでは、出来ることが限られていることも多くご家族様の協力は大きな力と考えているので、小さなことでも相談しながら良い関係を築ける様努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様より入居前の様子について情報提供してもらい、入居後はホームでの様子をご家族様に情報提供し、よりよい関係を築いていける様支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前より利用していたお店(美容室、スーパー等)を利用するなど配慮している。また、馴染みの友人など、気軽に来ていただける様ご家族様にも説明している。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様一人ひとりの性格を把握し、入居者様同士の関係を見極め、時にはスタッフが間に入り良い関係作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話を通して、入居者様の思いを把握できる様努めている。困難な場合は、特にスタッフ間の情報交換を密にし検討している。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様やケアマネさんからの情報を個別にファイルしスタッフが全員が目を通し、把握に努めている。入居者様本人から昔話や生活ぶりを聞くことができた時は、それを参考にしサービスに活かしている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者様、個々にアセスメントシートまたは、介護記録を利用し心身の状態を把握する様にしている。必要時には、その都度話し合いを持っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	回覧を作り全員に目を通してもらい、ミーティング時に意見を出し合うなどで情報を集め介護計画を作成している。		介護計画を作成する上で、もう少しご家族様の意見を聞きだせる機会を考えていきたい。
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入院等、身体的に変化が生じた場合、計画の見直しを行なっている。しかしながら、見直しのタイミングが上手く出来ていない様にも感じるところがある。		再度介護計画について、話し合いをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録には、ありのままを記入してもらうことで個人の様子をイメージしやすく、見直しにも役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	面会時間の制限を作らず、いつでも面会に来ていただける様にしている。ご家族様のホームでの宿泊も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの活用に関しては、ホーム内で話し合いを進めているところである。		今後の課題であり、活用できる様努力していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問看護や、訪問歯科のサービスを必要に応じて利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加していただき、情報交換をしている。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回医師による往診、必要時には受診対応をしている。急を要する場合は24時間電話等の相談もできる体制になっている。また、ご本人・ご家族様の要望がある場合は希望する医療機関を受診している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期受診の他に、必要に応じて専門医への相談・受診をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	訪問看護師による、週1回の健康チェックを実施している。必要に応じて24時間電話対応訪問も可能である。		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	入院することにより、環境の変化で落ち着かなくなることが心配されるので、出来るだけホームで過ごせる様ご家族様・医療機関・訪問看護師と連携している。		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	ご家族様の意向を大切に、医療機関・訪問看護師と話し合いを重ね方針を決め全員で方針を共有している。また、ご家族様に看取り介護の説明をし契約をしていた。		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	ホーム内で、出来ること出来ないことを確認しながら、医療機関・訪問看護師と連携し入居者様がよりよく暮らせる様取り組んでいる。		
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	ご家族様、関係者との話し合いを十分おこない情報提供等にも応じている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	声かけする時のタイミング、まわりの状況、声の大きさなどに気をつけている。個人情報の取扱いにも注意し、不要な書類などはシュレッダーにかけるなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	相談しやすい環境作りをしたり、自分から意思表示をするのが苦手な入居者様にはスタッフの方から声かけするなどしている。また、誕生日などには食べたい物の希望を聞くなど自己決定できる働きかけをしている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様のペースに合わせ、食事や入浴の時間にとらわれない様に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望やご家族の希望に合わせて馴染みの店に行くこともある。決まった所がない、また体調によっては訪問理美容にて対応することもある。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には声かけし、下準備や片付けをしてもらっている。出来る入居者様が決まってきたのが残念である。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好きな物、食べたい物を買ってきて冷蔵庫で預かり、本人の希望する時に提供している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を基本に考え個人の排泄パターンを把握し、それぞれに必要な介助をしている。本人に負担にならない様声かけに気をつけている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日、時間等は決めず体調などを考えできるだけ希望に合わせて、入浴していただいている。しかし、スタッフ1人で介助出来ない場合はスタッフの都合に合わせていただくこともある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持 よく休息したり眠れるよう支 援している。	昼夜問わず、無理に寝る様な声 かけはしない。自由にして頂い ているが、夜間のテレビの音 量や戸の開け閉めの音など集 団生活において難しい面もあ る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの 支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、 楽しみごと、気晴らしの支援 をしている。	食事の準備や片付け・買い物 等、それぞれの力や意欲等状 態に合わせて行っている。ま た、散歩や日光浴などの支援 も行っている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	金銭トラブル等の防止も考え ご家族様と相談した上で、ほ とんどの入居者様がホーム に預かり金をしています。本 人の希望がある時は一緒に買 い物をしたり、食事をしたり と対応しています。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず に、一人ひとりのその日の希 望にそって、戸外に出かけら れるよう支援している。	買い物、散歩等希望された 時は出来るだけ応じる様に しています。		
62 普段行けない場所への外出 支援 一人ひとりが行ってみたい 普段は行けないところに、個 別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機 会をつくり、支援している。	お弁当を持っての外出や、喫 茶店に行くなど出来るだけ 時間を作り出かける機会を 増やしていく様考えている。		ご家族様にも参加していただ ける様な行事を計画してい きたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら が電話をしたり、手紙のやり 取りができるように支援して いる。	ご家族様より制限されてい る場合を除いて、電話や手紙 の取次ぎは本人の希望に沿 って行っています。プレゼント などが届いた時は、本人が お礼の電話を掛けられる 様支援することもある。		
64 家族や馴染みの人の訪問 支援 家族、知人、友人等、本人 の馴染みの人たちが、いつ でも気軽に訪問でき、居心 地よく過ごせるよう工夫し ている。	面会時間の制限を作らず、 いつでも面会に来ていただ ける様にしている。居室だ けではなく、ホールで他の 入居者様やスタッフとも話 しができる様明るい雰囲気 作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を立ち上げ、身体拘束のないケアを念頭におき取り組んでいる。しかし危険が生じるなど、やむを得ない場合はご家族様に説明しベットの対応をすることがある。		身体拘束委員会を活用し、全員が正しい理解をする様取り組んでいきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	各居室には鍵はついていない、玄関の鍵も夜間以外の施錠はしていません。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室で過ごすことの多い入居者様には、こまめに訪室し様子をみている。夜間は2時間ごとに居室を巡回すると共に随時様子観察しています。また、転倒の危険のある入居者様はご家族様と相談し離床センサーを設置するなどの対応をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者様の状態に合わせて自己管理の方、ホームでお預かりをする方とそれぞれ対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット・介護記録等を活用し、話し合いをしながら再発防止に努めている。必要に応じて訪問看護師さんにも協力していただき、勉強会を開くなどで知識を学び事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急マニュアルに目を通しスタッフ全員が対応できる様取り組んでいる。ミーティング時には緊急時の連絡網等の確認をしている。		緊急時に落ち着いて対応ができる様、確認だけではなく訓練も考えていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	利用者と一緒に非難訓練を行い、落ちついて対応ができる様にしていきたい。夜間時の訓練にも取り組んでいきたい。		近隣の方の協力を得られるよう、働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	本人の状態に合わせリスクについては、事前にご家族様と話し合いを持ち対応している。緊急の時は、その都度連絡を取り話し合いを持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック、普段の様子を把握することで体調の変化、異変に気付ける様に努めている。気付いた時は、速やかに受診したり訪看に連絡をするなどの対応を取っている。状況によっては、ご家族様に連絡をしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬はスタッフが管理し、服薬確認をしている。用法・用量の説明書はファイルにはさみいつでも確認できる様にしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘予防の為、飲食物や運動に気をつけ腹部マッサージなども状況に応じて行っている。個々の排便パターンを把握しスタッフ間で情報の共有に努めている。講習会等にも積極的に参加している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、うがいの誘導をしている。出来ない入居者様もいるが声かけをしている。訪問歯科の口腔ケアを利用し、アドバイスをもらい口腔内の清潔保持に取り組んでいる。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量は個々の食べれる量に合わせている。水分量は、記録し把握している。目安となる量より少ない時は声かけするも無理じいはず、ゼリーなど他の物で取れる様工夫している。また、好きな飲み物などを用意するなど考えている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作り、いつでも目を通せる様各ユニットに置いている。台所・トイレ手すり等共有部分の消毒を徹底して行っている。また、食事作りの時はエプロンを変えるなどの配慮をしている。		定期的な、勉強会も取組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理前の手洗い、台所・調理器具の消毒は使用後その都度行なっている。食材の管理も、前日に材料が届く為ひとつひとつ確認し冷蔵庫、冷凍庫にて保管し衛生管理には気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	スロープを設置して車椅子でも安全に外に出ることができる。玄関にはベンチを置き靴の脱ぎ履きが座ってできる様にしている。夏は、花を植えるなど景観に気を付けている。また、今年は野菜を植える計画もしている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	余計な物は置かない、整理整頓に気をつけ行事の時の写真を飾るなど明るい雰囲気作りに配慮している。また、雛人形・こいのぼり・クリスマスツリー等季節感を採り入れるなどの工夫もしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ホールにソファや、スタッフルーム前に椅子を置いて、いつでも気軽にスタッフとも会話できる様な工夫をしている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室内の家具等は、使い慣れた物を持ってきていただく様ご家族様に説明しているが中には、新しく購入した物を持ってこられる方もいる。入居者様とスタッフで作った作品を飾るなどで殺風景にならない様な工夫もしている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	ホールには、空気清浄機や加湿器などを置き状況に応じて使用している。ホール・居室・廊下には温湿度計を設置し、換気・温度調節に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>車椅子、歩行器で入れるトイレ・エレベーターの設置、廊下・トイレ・浴室の手すり設置などを行っている。居室は、入居者様の状態に合わせて手すりを設置するなどの対応をしている。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自分で出来ることは極力してもらおう。出来ないこと、失敗してしまったことは声かけしながらスタッフと一緒にやるなど工夫している。また、生活パターンの把握をすることで失敗しない様に先に声かけするなどの配慮もしている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前に椅子を出し、日光浴やおしゃべりをしたり、焼肉をしたりと外の空間の利用も考えている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 入居者様も楽しく暮らせて、スタッフも楽しく仕事ができるという点では、良く出来ていると思います。笑顔のある明るいグループホームと感じていただけたと思います。施設ではなく、家庭という部分を大切にしていきたいので、行事などで常に全員で同じことをするのではなく、理念にも掲げている「その人らしい生活」に近づける様、無理せず進んでいきたいと考えています。また、ホームにとってご家族様は1番の理解者であり、協力者でも考えています。今後も良い信頼関係が築けるよう努力していきたいと思っています。